

# 市民との意見交換会

～安達高校生・二本松実業高校生×二本松市議会議員～



令和6年1月15日に二本松市議会初となる市民との意見交換会を本庁6階の正庁で開催しました。

開会式を議場で行った後、意見交換会では「20年後の二本松市の未来がどうあってほしい」について、議員と高校生がそれぞれの考えを話し合いました。

高校生から出されたご意見を一部紹介します。

## 人と人のつながりがあり孤独を抱えることのない温かいまち

- ・植物や花を道に飾ることで花を見た人の心が和やかになるなど、直接交流しなくてもつながりを感じられる取り組みで、今よりもさらに良いまちにしていけると思います。
- ・高齢者の孤独を解消するため、「おしゃべりベンチ」を設置するなど、人と人のつながりを生み、孤独を解決する取組をしてほしいです。

## 魅力にあふれ、楽しく暮らせるまち

- ・観光業を発展させて「二本松と言えば」と大きな声で答えられるような魅力あふれる市になってほしいです（提灯祭り、二本松少年隊をもっと知ってほしい）。
- ・商店街などがにぎわっていてたくさんの人が訪れるようになってほしいです。
- ・若い世代が農業を仕事にしたいと思える取組をしてほしいです。

## みんなが意見を言えて、市民全員が納得できるような明るいまち

- ・一人一人の問題意識が向上し、大きな問題も解決できる安心して暮らせるまちになってほしいです。
- ・今回の意見交換会のようにいろいろな世代の人の意見が届くようにしてほしいです。

## 災害に強いまち

- ・地震などの対策を万全にしてほしいです。
- ・老朽化した建物などの問題がなくなしてほしいです。

## みんなが住み続けたいと思えるまち

- ・子育て支援などが充実してほしいです。
- ・待機児童の問題が解消されていてほしいです。
- ・進学で離れた若い人が再び暮らしたいと思えるような政策や支援を充実させてほしいです。



これまで開催してきた議会報告会の開催方法について検討を行い、令和6年1月15日、初めての試みとなる市民との意見交換会を開催しました。

次代を担う高校生が政治や行政、選挙などに対する理解と関心を高めるとともに、多様な市民参加を図る機会のひとつとして、若者世代と意見交換を行い、より開かれた議会の実現を目指すことを目的とし、安達高校、二本松実業高校の20人の高校生に参加いただきました。

青森大学社会学部の佐藤淳教授がファシリテーターを務め、「20年後の二本松市の未来を語ろう」をテーマに、「子育て支援の充実」「若者が二本松市に戻ってきたいと思える政策」「人と人のつながりがある」「いろいろな世代の人の意見が届く」など二本松市の未来への希望を提言していただきました。

安達高校、二本松実業高校のみなさま お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。

## 編集後記

3月定例会では、各会派の代表質問と一般質問が行われ、登壇した議員全てが社会問題や市民生活の問題改善のために、質問を行いました。詳細については市議会のウェブサイトで動画を見るすることができますので、どうぞご覧ください。また、今定例会において市民の皆様の生活を守る令和6年度の予算審査が行われ、特別委員会を設置し、詳細にわたって当局に対する質問・意見を行いました。編集委員会ではより分かりやすい広報などについて議論を重ね、様々な意見を出し合いながら、工夫を凝らし、より多くのみなさんに読んでいただけるような紙面づくりに向け、取り組みを進めています。議会だよりの表紙のイメージが変わったことをご存知でしょうか。

（三木）  
今後、市民の皆様が手に取って読んでいただけるような議会だよりを発行してまいります。



編集委員会  
委員長 安齋 政保  
副委員長 齋藤 徹  
委員 齋藤 広二  
委員 坂本 和広  
委員 武藤 清志  
委員 高宮 彦剛  
委員 三木 剛